

CAN-DOリスト

を使った授業づくり

商品番号
E116-S



～目標達成のための言語活動の取り入れ方～

全3巻 セット特価 20,000円+税 各巻 8,000円+税(送料別)

中・長期的な目標を単元・授業へ
どのように落とし込むかが
見えてくる!

学校英語におけるCAN-DOリスト

- 形だけを整えたCAN-DOリストでは教科書での学習を活性化させるためのリストを
- CAN-DOリストのそれぞれの目標をどの単元で学習するか

CAN-DOリストのもと

- 単元で「できるようになること」を到達目標として明示
- 授業!
- 単元の学習で「どのくらいできるようになっているか」を評価
- ⇒指導と評価の一体化



- 解説・監修／阿野 幸一(文教大学国際学部国際理解学科教授、同大学院国際学研究科教授)
- 授業者／小泉 香織(渋谷教育学園幕張中学校・高等学校)
- 使用教材／NEW HORIZON English Course2(平成28年度版)

「CAN-DOリスト」を作ったまでは良いが、
使い方がわからない、
全く活かされていない…。
そのような悩みや声にお応えするDVDが完成しました!

CAN-DOリストにおける中学2年生での目標

「身近でなじみのある話題」について、相手に質問したりしながら会話を続けることができる」

	話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
1学期	自分の好きなことや得意なことを用いて、自分の生活のことや体験したことなどについて話すことができる。	自分の好きなことや得意なことを用いて、自分の生活のことや体験したことなどについて話すことができる。	自分の好きなことや得意なことを用いて、自分の生活のことや体験したことなどについて話すことができる。	自分の好きなことや得意なことを用いて、自分の生活のことや体験したことなどについて話すことができる。
2学期	身近でなじみのある話題について、相手に自分の意見をもとめて質問することができる。	身近でなじみのある話題について、相手に自分の意見をもとめて質問することができる。	身近でなじみのある話題について、相手に自分の意見をもとめて質問することができる。	身近でなじみのある話題について、相手に自分の意見をもとめて質問することができる。
3学期	自分の経験や日本文化の紹介などについて、相手の質問や意見をもとめて説明することができる。	自分の経験や日本文化の紹介などについて、相手の質問や意見をもとめて説明することができる。	自分の経験や日本文化の紹介などについて、相手の質問や意見をもとめて説明することができる。	自分の経験や日本文化の紹介などについて、相手の質問や意見をもとめて説明することができる。

【セット購入特典】

全3巻セットをご購入の方に、
特典資料(PDF形式)をプレゼント!

- 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標例(1P)
- イントロダクションでのPPT(17P)
- 授業で配られたハンドアウト(各1P)
 - *自分の町を紹介しよう!
 - *私が好きなこと・夢中になっていること

購入特典は弊社通販サイト内の「特典ダウンロードセンター」より資料をダウンロードできます。
※商品記載のパスワードが必要です。

DVDでは、この目標を達成するために3つに分解して、毎日の授業でどのように教科書を活用したらいいのかを取り上げています。また、学期ごとの活動例として、各単元、そして1時間の授業単位をどのように作ってあげればいいのかを具体的にご紹介していきます。

CAN-DOリスト を使った授業づくり

～目標達成のための言語活動の取り入れ方～

商品番号 E116-S(全3巻)



中学2年生 Spoken Interaction

【話すこと-やりとり】を例に、

1年間のCAN-DOリストの目標を

達成するための、言語活動のつながりを提示!

ペアでチャット



発表者に質問



全員の前で発表



E116-1 (52min)

【一学期の授業】

休暇や週末の予定について **be going to**

単元目標としては「休暇や週末の予定について、たずねたり伝えたりすることができる」になります。

ここでは、一学期(5月)の授業を例に新出文法事項として、未来表現「be going to」を扱います。

生徒にとって身近な話題として、休暇や週末の予定をたずね合う言語活動を行い、段階的に力を付けていきます。

■イントロダクション

■インプット-教師と生徒のインタラクションで、週末の予定についてやり取りをする

1. 教師が自分の週末の予定について、be going to を使いながら話す

2. 生徒に彼らの週末の予定について質問する

■新出言語材料の確認-be going to

1. be going to の形と意味と働き(予定)の確認
「どんな表現を繰り返し使っていた?」
「これで何を言うことができる?」

2. 英文で be going to を黒板に提示

3. 先程発話した生徒の予定を使ってリピーター練習

■教科書本文の学習と音読

1. ピクチャーカードを使ってオーラルイントロダクション + 生徒とのインタラクション

2. ピクチャーカードを見せながらCDを一通り流す

3. 内容についていくつか生徒に質問する

→その答えを使ってリピーター練習

4. 教科書を開いて音読練習(リピーター)

*be going to の所は繰り返し発音し、定着を目指す

■言語活動-「週末の予定をたずね合う」(1分間会話)

1. 生徒1人を指名し、教師とのやりとりを通して全体に見本を見せる

2. ペアで1分間チャットをする

→ペアのチャットで出てきた質問を全体で共有する

→ペアを変えてもう一回、1分間チャットをする

→数人を指名して全体の前で発表させる

+聞いている側の生徒の中から数人にその内容について質問させる

E116-2 (55min)

【二学期の授業】

住んでいる町について **There is/Is there**

単元目標としては「自分の住んでいる町について、相手に紹介したりたずねたりすることができる」になります。

第2巻では二学期後半(11-12月)の授業を例に、新出文法事項として、「There is/Is there」を扱います。

まずは、教師が住んでいる町についてThere is構文を使って紹介します。

次に、生徒が住んでいる町について質問をして答えを引き出しますが、その際、Is there/Are there?と疑問文の導入を図ります。

■インプット-教師が住んでいる町について生徒に紹介+生徒とのインタラクション

1. 教師が自分の住んでいる町について、There is/are～を使いながら話す

2. 生徒にIs/Are there?を使いながら質問をしていく

e.g. Is there a shopping mall in your town?
- Yes, there is. There is a shopping mall.

■新出言語材料の確認-There is/are ～. (Is/Are there?)

1. There is / are の形と意味と働き(新しい話題の導入)の確認

「どんな表現を繰り返し使っていた?」「これで何を言うことができる?」

2. There is / are を使った例文を黒板に提示

3. 黒板に貼った写真を使ってリピーター練習

■教科書を使った言語材料の定着と町の紹介の仕方

1. 基本練習で形の定着

2. 熊本の町紹介を使い、町紹介ではどのような内容が使えるのかを確認(町の名前、位置、特色、そこで何が出来るか等)

■言語活動-「自分の町について友達に紹介しよう」(1分30秒会話)

1. 生徒1人を指名し、教師とのやりとりを通して全体に見本を見せ、やりとりのための指導をする

2. ハンドアウトを配り、自分の町について紹介できることを考える時間を与える

3. 自分の町について、ペアでチャットをして紹介し合う

→チャットで出てきた話題を全体で共有し、話を展開する

→ペアを変えてもう一回、1分30秒チャットをする

→数人を指名して全体の前で発表させる

+聞いている側の生徒の中から数人にその内容について質問させる

E116-3 (51min)

【学年末の授業】

興味や関心のある事柄について **総復習**

単元目標としては「自分が好きなことや夢中になっていることについて、相手に伝えたりたずねたりすることができる」になります。学年末(3月)の授業では、1年間に学習したことを復習して活用しながら、たくさんの方が表現できるようになったことを実感させます。ここでは、2年生で学習した主な文法事項である不定詞、動名詞、未来表現、比較級、because、I thinkなどの総復習の場とする

■インプット-教師が好きなことについて生徒に話し、生徒の好きなことについてインタラクションでたずねる

1. 教師が自分の好きなことについて生徒に話す

2. 生徒に自分の好きなことについてたずねる/ペアで自分の好きなことについて話し合う

■言語材料の確認-2年生で学習する主な文法事項である不定詞、動名詞、未来表現、比較級、because、I thinkなどの総復習の場とする

■言語活動-「自分が好きなことや夢中になっていることについて、友達と伝え合おう」(2分間会話)

1. 教科書の例を見ながらおおまかなイメージをつかませる

2. マインドマップを使って、キーワードを書き出し、話す情報をまとめさせる

3. 自分が好きなことや夢中になっていることについて、ペアでチャットをする

→ペアのチャットで出てきた質問とリアクションを全体で共有する

→ペアを変えてもう一回、2分間チャットをする

→数ペアを指名して全体の前で発表させる

+聞いている生徒から発表についてのフィードバックを引き出す